

《報告》 コロナ禍における授業

## 2020年度の語学教育センター

### はじめに

語学教育センター  
所長 若林俊英

2020年度（2019年度末も含む）は、先生方にとっても学生にとっても記憶に残る一年となったことでしょう。新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の拡大に伴う全学での2019年度学位記授与式の中止、2020年度入学式の中止から始まり、諸行事が中止や延期となり、授業の開始も5月からになってしまいました。

語学教育センターでは、授業開始前に英語練習問題を作りWebClassに載せ、学生に提供してきました。また、対面での授業が不可能となったことから、必修英語も統一課題として、その教材作りに専任の先生方、事務室の方々が一丸となり当たってきました。特に、中心になって練習問題や教材の作成に当たられた先生方は、傍目で見ているのではないかと思うほどでした。また、学生や非常勤講師、他学部からの問い合わせやクレーム等に忙殺された事務室の職員の方々も大変な思いをされたことでしょう。

後期は、当初、対面授業で実施することになっていましたが、感染症の拡大等の事情でオンライン中心になってしまいました。ただ、オンライン授業に不慣れな先生方も多く、その先生方に対する講習会や授業の状況報告会等を何回も開催しましたが、その準備等でも先生方や事務室の方々に多くの負担をかけてしまいました。

2020年度の苦闘の記録を残すことは、後のためにも意義あるものと考え、本年の『語学教育センター研究年報』には従来の論文に加え、小特集として「オンラインによる授業実践」を掲載することにしました。この記録を、自省、また、新年度の参考にさせていただければ幸いです。